

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	有	応募総企画数	4企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっぽんしゃだんほうじん にほんきょういくえんげきどうじょう 一般社団法人日本教育演劇道場		団体ウェブサイトURL https://rakurinza.com
	代表理事・大河内真由美		
制作団体所在地	〒 329-2815	最寄り駅(バス停)	JR 西那須野駅
	栃木県那須塩原市下大貫1246		
電話番号	0287-36-2488		
ふりがな 公演団体名	げきだんらくりんざ 劇団らくりん座		団体ウェブサイトURL https://rakurinza.com
	代表 大河内真由美		
公演団体所在地	〒 329-2815	最寄り駅(バス停)	JR 西那須野駅
	栃木県那須塩原市下大貫1246		
制作団体 設立年月	1950年 4月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事 大河内真由美 理事 草野知明 理事 古賀章		劇団員10名、制作部1名 加入条件:採用試験合格後理事会で承認、2年間の研究生を経て劇団員に昇格
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	柄澤久美子 (一般企業での事務歴17年)
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	古賀章(市役所勤務歴25年) 経理顧問:清水税理士事務所
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	kunugi@rakurinza.com		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>1950年 劇団らくりん座の母体となる 日本教育演劇道場が設立  1952年 劇団らくりん座発足 栃木県演劇教室の巡回公演を始める  1978年 芸術文化振興基金助成事業(社)日本児童演劇協会主催  「児童青少年演劇地方巡回公演」参加  1989年 文部大臣表彰による地域文化功労団体賞を受賞  1992年 子どものためのドラマスクール開始(～2009年)  1996年 ロシア・オムスク日本文化と芸術フェスティバル(ロシア・オムスク州)公演  1997年 那須野が原文化振興財団主催演劇講座講師(～現在)  2000年 子ども演劇塾を開始(～2011年)  2002年 とちぎ総合学習文化財団主催ドラマスクール指導  2014年 (公社)日本児童青少年演劇協会主催 全国地方・離島・へき地  「児童青少年舞台芸術」巡回  2018年 第58回久留島武彦文化賞団体賞を受賞</p>		
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>昭和27年9月に、栃木県内の小・中学校で演劇教室を行って以来73年間にわたり、日本全国の小中学校の体育館で演劇鑑賞教室を約13,000回実施。  児童数10人程の小規模校から1000人以上の大規模校まで、学校の実態に応じた公演を行っている。  学校主催の公演の他、各市町村の教育委員会主催の演劇鑑賞事業や・人権啓発事業等でも多数公演している。</p> <p>令和5年には年間4作品、約100公演を実施している。</p> <p>『あらしのよるに』は2018年の初演以来175回の公演実績となる。(2024年9月現在)</p>		
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>平成30年度  栃木県立盲学校、栃木市特別支援学校、那須特別支援学校、宇都宮市立青葉学園</p> <p>令和2年  栃木市特別支援学校</p> <p>令和4年  宇都宮大学共同教育学部附属特別支援学校</p> <p>その他、平成22年より毎年、栃木県委託事業「消費者被害防止啓発劇」の巡回公演を特別支援学校や福祉施設を中心に行っている。</p>		
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>	
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://www.youtube.com/watch?v=6lY87zx70DY">https://www.youtube.com/watch?v=6lY87zx70DY</a></p>	
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	
		<p>PW:</p>	

別添	なし
----	----

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 劇団らくりん座】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	劇団らくりん座公演「あらしのよるに」			
企画のねらい	利害が対立する相手と友情を育むことは可能か、自らが生きて行くために他の命を犠牲にすることをどう考えるか、がこの物語の重要なテーマです。食欲という本能を乗り越えて友情を大切にできるガブ、食べられてしまうかもしれないという死の恐怖を乗り越えてガブを信じるメイ、相手への信頼や不信が交錯する中、二匹は相手を思いやり、いかに「友達」が大切なものであるかに気がきます。彼らの葛藤を通し、子どもたちが「友達」や「友情」について多面的に考え、国家や宗教、いじめや戦争など様々な対立や分断が生じている現代社会を生きるヒントを得て、他者理解や想像力・コミュニケーション能力を高めてもらうことに繋がります。「私たちが食べるエサにも命がある、命を食べるのが生きるということ」を子どもたちに投げかけ、食育等の観点からも考察いただける作品です。			
演目概要・演目選択理由	<p>【あらしじ】ある嵐の夜、真っ暗な山小屋の中へ避難してきたヤギとオオカミ。二匹は相手が誰だか分からないまま、意気投合する。そして「あらしのよるに」を合い言葉に翌日再び会う約束をする。翌日、二匹は互いの正体を知ることになるが、「食べる」側と「食べられる」側という関係を超えて「ひみつのともだち」となる。しかしやがて、二匹の関係はお互いの仲間に知られてしまい、それぞれ相手の情報を探ってくるように命じられる。ヤギのメイとオオカミのガブは、集団内での立場よりも、お互いの友情を大切に2匹で逃げることを決意。ヤギとオオカミと一緒に暮らすことができる「緑の森」を目指して。</p> <p>吹雪の中を行く2匹。空腹と寒さに体力を削られ、もう歩けないと感じたメイは「私の分まで生きて」とガブに自分を食べるように懇願する。そのとき既にオオカミの群れは間近に迫っていた。ガブはメイを食べることができず、オオカミたちと闘ったが雪崩にのまれてしまった。雪がやみ、目覚めたメイのそばにガブはいなかった。</p> <p>ある日、ガブが近づいてくるのを見て、喜んで近づいていくメイ。しかしガブは雪崩のショックで記憶を失っていた。ガブの豹変ぶりを嘆き悲しんだメイは、「あのあらしのよるに出会わなければよかった」と叫ぶ。その言葉でガブの記憶は戻り、二匹は再び友情で結ばれたのであった。</p> <p>【演目選択理由】アニメ映画など様々に作品化されて高い評価を受けている「あらしのよるに」。当劇団では、回り舞台を駆使し草原、山の頂上、雪山へと表現するなど、舞台ならではの臨場感を演出します。想像が膨らむ舞台美術に、小さな生き物が歌う力強い歌、様々な機材を使用して舞台を物語の世界へ変えさせる照明など、まさに総合芸術と呼ぶにふさわしい舞台を構成しており、本事業に適した演目と考えています。</p> <p>また、ベストセラー絵本が原作のため、鑑賞後に読書への興味を促すこともでき、鑑賞能力の向上を図れると共に、登場人物の心情を想像して鑑賞・出演することで、他者理解・自己理解につながる作品として、本演目を選択しました。</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>①ヤギ10名前後、オオカミ10名位、森のコーラス10名以上(動物たちも参加は可)として参加します。</p> <p>○ オリエンテーション(全員) オオカミとヤギはお友達になれるか、なれないか?もし自分がオオカミだったら?ヤギだったら?と考え、想像してみる。</p> <p>○ オオカミチーム 1幕中盤→ガブの回想シーンにオオカミ達の権力争いを見守る仲間のオオカミとして登場(オオカミ全員) 1幕終わり→オオカミのリーダーギロと登場、セリフや遠吠えなどあります。(オオカミ1~4名まで)</p> <p>○ ヤギチーム 2幕冒頭→「どしゃぶりの日に」オオカミから逃げ惑うヤギ族として登場し、ヤギの裁判に参加</p> <p>○ 森のコーラス隊 2幕中盤→オオカミとヤギの「ひみつの友達」が仲間にばれ、お互いの種族の秘密を探りに行くシーンの道中で劇中歌「未来を想う歌」を歌います。</p> <p>②学校の時間の都合がつけば、上演後にステージバックヤードツアーを行い、実際に装置などに触れる時間を設けます。</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	～100人(100人以上は要相談)	
		鑑賞人数目安	～500人	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>「あらしのよるに」 原作/きむらゆういち(「あらしのよるに」完全版) 脚本/かめおかゆみこ 演出/印南貞人 作曲/上野哲生(ロバの音楽座)</p>			
		公演時間	100	分

<p>出演者</p>	<p>ガブ／大河内真由美 メイ／高木彩 タブ／杉山幸子 ギロ／中沢章 バリ／笠原瑞己 長老／手塚祐子 オオカミ／武田まゆか オオカミ／松谷智弘</p>					
<p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名</p>	<p>大河内真由美／らくりん座所属歴38年、ワークショップ講師歴23年、年間約100公演に出演、那須野が原ハーモニーホール主催事業「演劇講座」主任講師(講師歴13年)。 杉山幸子／劇団俳優座 演劇研究所 22期生修了、らくりん座所属歴15年、ワークショップ講師歴10年、那須野が原ハーモニーホール主催事業「演劇講座」講師(講師歴4年) 高木彩／らくりん座所属歴11年、ワークショップ講師歴8年</p>					
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<p>出演者: 8 名 スタッフ: 3 名 合 計: 11 名</p>	<p>運搬</p>	<p>積載量: 2t/ 1 t 車 長: 7m/ 5 m 台 数: 1台/ 1 台</p>			
<p>本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安</p>	<p>前日仕込み</p>	<p>無</p>	<p>前日仕込み所要時間</p>	<p>時間程度</p>		
	<p>到着</p>	<p>仕込み(共演児童リハーサル)</p>	<p>上演</p>	<p>内休憩</p>	<p>撤去</p>	<p>退出</p>
	<p>8時</p>	<p>8時～11時30分 (11時30分～12時15分)</p>	<p>13時～14時40分</p>	<p>10分</p>	<p>15時～18時</p>	<p>18時</p>
<p>※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。</p>						
<p>本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>		
	<p>0日</p>	<p>0日</p>	<p>0日</p>	<p>10日</p>		
	<p>10月</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>		
	<p>10日</p>	<p>10日</p>	<p>10日</p>	<p>10日</p>		
	<p>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</p>		<p>計</p>	<p>50日</p>		

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

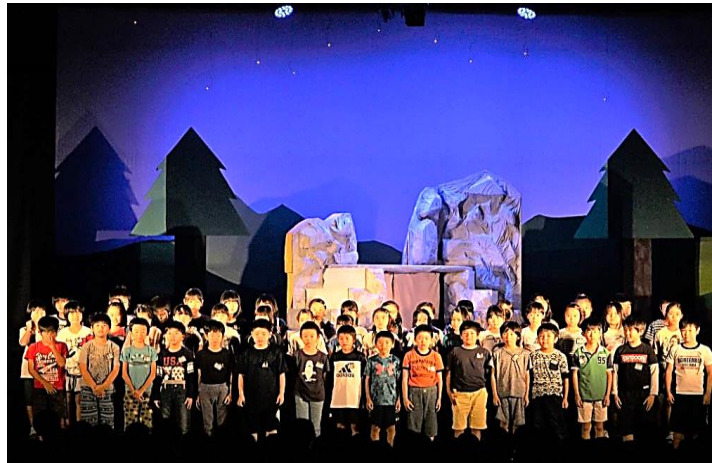


図1

コーラスのリハーサルの様子。  
舞台はステージ上に設営し、  
その前で歌います。



図2

オオカミチーム共演シーン  
の本番の様子。



図3

・体育館ステージ上に舞台を設営した  
場合の様子。



※体育館のフロアに舞台設営も可能  
です。その場合は、ステージ前のフ  
ロアを6mほど使用します。

※体育館の後方フロアに舞台を設営  
することもできます。

著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要 否		該当あり	該当コンテンツ名	脚本の原作
	該当事項がある 場合	権利者名	原作：(株)きむらゆうち事務 所	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済

別添	なし
----	----

【公演団体名 劇団らくりん座 】

ワークショップのねらい	実体験や観察したものの空想したものなどを基に想像力を育む。 コミュニケーション力向上、自主性を高めかつ協調性を育む。 集中力、創造力、自己肯定感の向上。 鑑賞への関心を高める。 人前で表現することを経験し、学習発表会や文化祭等で自信を持って発表できるようにする。		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	～100人(100名以上は要相談)
ワークショップ実施形態及び内容	<p>《事前ワークショップ》 標準:90分 会場:体育館、教室、音楽室</p> <p>①ウォーミングアップ&lt;5分&gt;→リラックス・心と身体の解放          ・劇団員による手足の運動に始まり、分散神経、リズム、創造力を刺激する動きを行います。</p> <p>②空間を歩く&lt;15分&gt;→想像力・集中力を高める          ・体育館の空間を人にぶつからないように歩きます。          ・進行がお題を出します。出されたお題をイメージして歩きます。</p> <p>③共演シーンの練習&lt;40分&gt;→コミュニケーション力・表現力・協調性を育む          ・オオカミ、ヤギ、コーラスの登場シーンの説明、舞台の説明を行います。          ワークショップ時には体育館にある器具を使用して仮設舞台を作ります。          ・各チームに分かれて場面の練習(オオカミは体育館、ヤギは多目的ホール又は教室、コーラスは音楽室などに分かれます)</p> <p>●オオカミ→台本を元にセリフの練習、動きの練習をします。          ●ヤギ→なぜ逃げるのか、ヤギにとってもオオカミはどんな存在か、自分のキャラクター、相手との関係性などを話し合い、各自でセリフを決めてから、動きの練習をします。          ●コーラス→どんな気持ちで歌うのか、口の開け方、歌詞の表現の仕方など指導して練習します。(途中で10分間休憩)</p> <p>④共演シーンの合同練習。各チーム毎に仮設舞台でリハーサル&lt;30分&gt;</p> <p>《本公演当日リハーサル》標準:45分 会場:体育館</p> <p>本番同様の照明・音響の中、リハーサルを実施します。          本番終了後には10分程度の振り返りをします。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>●事前に学校と綿密な打ち合わせをし、児童の人数や学年・適性に合わせた内容を実施します。          ●「参加人数の目安を超えている」「少人数(選抜)で行いたい」などの要望にも柔軟に対応します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="432 1552 887 1854">  </div> <div data-bbox="932 1552 1390 1854">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="432 1854 887 1989"> <p>●実際の舞台の広さがわかるように、テープで印をつけ、大道具と同じ大きさのシートを敷いて練習します。</p> </div> <div data-bbox="932 1854 1390 1989"> <p>●子どもたち1人1人の意見を聞き取りながら発想を引き出していきます。</p> </div> </div>		

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名

劇団らくりん座

】

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫

①本事業に対する取り組み姿勢  
現代の子どもたちは、パソコンやテレビ・タブレットで、どんな情報もエンターテインメントも、自由に選び、いつでも見ることができます。  
一方で、実際に身体を動かしたり、初めて見るものに触れたり、といった「体験」の機会は、減ってきているように思います。  
「生の舞台」を見ることは、子どもにとって非常に重要な体験の一つと考えています。生の人間が目の前で演じる感動を子どもたちに感じてもらいたい。また、一緒に舞台に立つことで、普段味わえない緊張感と達成感を感じてもらいたい。そして、それを糧として生きる力を養ってもらいたい。これが私たちの思いです。  
全ての子どもたちに「生の舞台」を届けたいと考えていますが、実際には小規模校など、芸術鑑賞の機会を得にくい学校があるという現実も承知しています。  
そういった学校の子どもたちにも、この事業の力を借りて是非とも生の舞台をお届けしたいと考えています。  
本事業の最大の特徴である「体験型ワークショップ」では、事前に子どもたちと、出演者でもある講師が話し合ったり、想像を膨らませたりしておくことで、鑑賞体験をより充実したものへ導くことができます。この特色を生かし、通常の公演以上の芸術体験を子どもたちに届けます。  
また、本事業の魅力やねらいをしっかりと伝えるために、わかりやすい資料を作り、綿密な打ち合わせをするなど、先生方とのコミュニケーションを大切にしていきます。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫  
**【先生方との綿密な打ち合わせ】**  
1)ファーストコンタクト(TEL)  
ご挨拶と共に、日程・本事業の内容(特に事前ワークショップについて把握されているか)・今後の連絡手段等を確認します。  
2)ワークショップの事前打ち合わせ(TELまたはメール)  
ワークショップを行う前に、先生方と子どもたちの実態を聞き取り、どのようなことに重点を置いて進めていくのが、子どもたちのためになるかなどの打ち合わせをします。(協調性を育みたいのか自発的に行動できるようになりたいのかなど)  
3)ワークショップ資料と本公演事前打合せ事項送付(郵送)  
ワークショップのタイムスケジュールや準備物等、わかりやすく資料にまとめ、学校に送付します。  
ワークショップ後に本公演事前打ち合わせを行うので、そのための打ち合わせ事項書類も同時に送付します。特に本公演のタイムスケジュールは、出演児童のリハーサルの時間も含まため、先生方が学校の授業スケジュールを立てやすいように工夫した資料を用意しています。  
4)本公演の事前打ち合わせ(ワークショップ当日・対面)  
ワークショップには舞台責任者と本事業担当者が指導者として参加します。事前に送付した打ち合わせ事項を元に、会場の寸法確認、当日の詳細な時間などを打合せします。(30分～1時間)。  
対面で打ち合わせができるので、本公演に向けて配慮が必要な点や疑問点等を、先生から丁寧に聞き取り、綿密な打ち合わせをします。  
5)公演当日の打ち合わせ(対面)  
学校に到着後、担当の先生または司会をされる先生との打ち合わせを20分程いただき(時間帯は先生のご都合の良い時間をお願いします)最終確認となります。

**【担当窓口の設置】**  
劇団内事務所に常駐の事務員が、当事業の事務も担当しています。学校との事務連絡・ご不明な点があれば遠慮なく、劇団までTEL・FAX・メールなどでご連絡ください。迅速に対応いたします。(TEL受付時間は月～金9時～17時)

**【学校現場への配慮】**  
子どもたちへの言葉遣いや立ち居振る舞いについて、研修を重ねています。子どもたちと打ち解けながらも丁寧な言葉遣いは崩さない等、メンバーに徹底して指導しています。  
長年の学校公演で培った経験を元に先生方の負担にならないような打ち合わせの仕方、進行の仕方等を工夫し、本事業の目的やワークショップの必要性を丁寧に伝えさせていただきます。